



平成26年 年頭のご挨拶



安中 徳二

一般社団法人
日本非開削技術協会会長

明けましておめでとうございます。

去る6月末、松井大悟前会長（現顧問）の後任に選出されました。大役に緊張しておりますが、前会長に変わらぬご支持をよろしくお願いいたします。勝手ですが、自己紹介を少々させていただきます。私はこれまで約45年にわたって、主として国の立場で下水道事業に携わってきました。そのほとんどは市町村の全体計画づくりに関するものでした。ハードの分野では下水処理場の設置・管理に関する事に数多くタッチしてきました。その他、約12年間にわたって当時の土木研究所で汚水処理に関する技術開発に関わりました。

下水道事業は大きく処理場業務と管渠業務に分けられますが、私は自分自身を処理（場）屋と考えています。これに対し、本協会の皆様の多くは、下水や雨水の収集をもっぱらとする管渠づくりを担当される管渠屋ということになります。下水道は面整備と呼ばれる管渠整備によって汚水を受け入れるのですが、処理場の能力とのバランスをとって整備することが極めて重要で、関係者はその事に腐心したものです。全国の下水道平均普及率が76パーセントを超えた現在、そのような問題は減っていると思えます。

この半年の間、協会活動を通じて多くの管渠屋さんにお会いしましたが、私の印象は総じて皆さん自分の技術に自信を持っておられる、明るい方が多いということです。私はこの明るさを事業全体の活性化に生かしたらよいと考えております。皆様方のお知恵も拝借したいと思えます。

日本非開削技術協会（JSTT）の理念は、「ガス、下水道、水道、通信、電力などの地下パイプラインの調査、検査、建設、維持管理、および地下探査等に関する非開削技術の交流により我が国の地下利用技術の進歩に貢献し、その安全性の向上を図り、広く公共の福祉に寄与する」ことです。さらに海外との交流を図り、非開削技術が世界中に普及することに貢献していくことも理念の大きな柱の一つです。松井前会長は大変ご熱心に海外との交流に取り組まれましたが、私もその路線を踏襲したいと考えております。

公共事業が抱える基本的課題は、下水道事業を例に

とれば、少し抽象的ですが、システムの持続性の確保、貢献する地域の拡大、そして貢献する分野の拡大を基本方針として、人口減少社会への対応、資源エネルギーの有効活用、アセット・マネジメント、浸水対策をはじめとする防災減災対策および下水道関連技術による国際貢献の充実など多岐にわたっております。

具体的には、各年度の予算の概算要求に、国の当面の施策の概要を見てとることができるのですが、これによると平成26年度の新規事項には、敷設から50年を経過した管渠を対象にした「下水道老朽管の緊急改築推進事業」、都市におけるゲリラ豪雨による被害を軽減すること等のための「下水道浸水被害軽減総合事業の拡充」、雨天時の越流水による汚濁対策を徹底させるための「合流式下水道緊急改善事業の拡充」等が挙げられております。

これらの課題はいずれもJSTTの会員にとっても身近な課題であり、ビジネスチャンスが期待できそうです。

次にこの1年間の活動の成果についてです。第一は、本年も技術開発に多大の成果がありました。昨年の暮れに行われた技術研究発表会の内容はその象徴であり、約140名の参加を得て、熱心な議論が行われました。また、昨年が続いてISTTのNo-Digアワードの表彰を受けております。まさに世界をリードする日本の技術といっても過言ではないと思えます。第二点は、ISTT会員の2社が（公社）日本下水道協会の主催する下水道展での展示を果たせたということであり、下水道の施設はほとんどが地下に入り見えないため展示の効果は多大なものがあります。海外企業の参加は、予てより検討されていたのですが、米国およびドイツから参加した2社はそろって展示は成果があったと述べているので、言葉の壁などを軽減できれば、かなりの数の継続的な参加の期待が持てます。

いろいろ述べましたが、昨年も東日本大震災の復旧・復興に関心が寄せられた年でした。その進捗は、全体的にはかばかしくないとの報告がなされておりますが、関与されている多くの会員の更なるご活躍に期待しております。新しい年が更なる発展の年となりますよう祈念して、年頭のご挨拶といたします。